

# 栄光

|                 |  |
|-----------------|--|
| 説教・「試みの時」       |  |
| 松谷祐二牧師…1        |  |
| 特集・手作りの特集しみ…2   |  |
| 伊藤英志牧師との懇談会報告…3 |  |
| 説教・「完全にひとつとなる」  |  |
| 伊藤英志牧師…4        |  |
| 追悼・林崎正史兄…5      |  |
| 大川由美子姉…5        |  |
| 受洗・信仰告白         |  |
| おめでとう           |  |
| 林田玲美姉…6         |  |
| 村田健兄…6          |  |
| 転会おめでとう…7       |  |
| 松谷佳子姉           |  |
| 長老のファイル…7       |  |
| 牧師の寄り道…8        |  |

## 『試みの時』

説教

ゼカリヤ書13章7節～9節  
ルカによる福音書22章31節～34節

松谷祐二

イエス様は最後の晩餐でパンと杯を分けて聖餐を定め、使徒たちに語られました。それらはまた、今の私たちへのお言葉です。

毎年祝われていた過越の食事ですが、この夜のそれは、色々な意味で特殊でした。(1) イエス様は出エジプトを記念する言葉を、ご自身の十字架の死を覚える言葉に変えました。(2) イエス様は「私を裏切る者がいる」と明言され、使徒たちは「一体誰がそんなことを」と互いに議論しました。(3) さらに彼らは、「誰が一番偉いか」と言い争いました。ほとんど同じ心根の私たちです。イエス様は「上に立つ人は、仕える者となれ」と、使徒たちと私たちとを、戒められます。(4) 事実、あなたがたは

偉くなる。私が王権を委ねるので、あなたがたは、私と共に神の国を治めることになる、とイエス様は言われました。

(5) 最後に、イエス様は悲しみつつ言われます。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願った。」サタン(悪魔)が自分のやり方で試験をし、合格者と不合格者を分けることを、神様が許可しました。しもべを大事な務めにつかせるためです。イエス様自身、その働きのために、悪魔の試みを受けてこれに勝っておられます。使徒たちも、私たち教会も、イエス様から務めを与えられます。神の国の福音が宣べ伝えられる皆、神の国の見える形、その入口

としての、重要な務めです。だからこそ、教会は試みられるのです。特に今のような変化の時、教師交代などの節目は、サタンが教会を揺さぶる格好の機会となり得ます。

そしてイエス様は、この試験の結果がどうなるかをご存知です。シモンも、使徒たち全員も、私たち教会も、一人残らず不合格になる。その結果は深刻です。放っておかれると、信仰を失う。散らされた羊たちが、そのまま、羊飼いのもとに帰ってこなくなるのです。

「しかし、」イエス様は放っておかれませんが、力を込めて仰せになります。「私は信仰がなくならないように、あなたのために祈った。だから、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

シモン自身は、合格する気でした。「牢であるうと死であるうと覚悟しております」と本気で言いました。私たちが皆、本気です。しかし、もし私たちの自力で立つことができると思うなら、きわめてすみやかに、私たちは倒れるでしょう。ペトロが、まさにその夜

のうちに、三度、イエスを知らないと断つてしまったように。

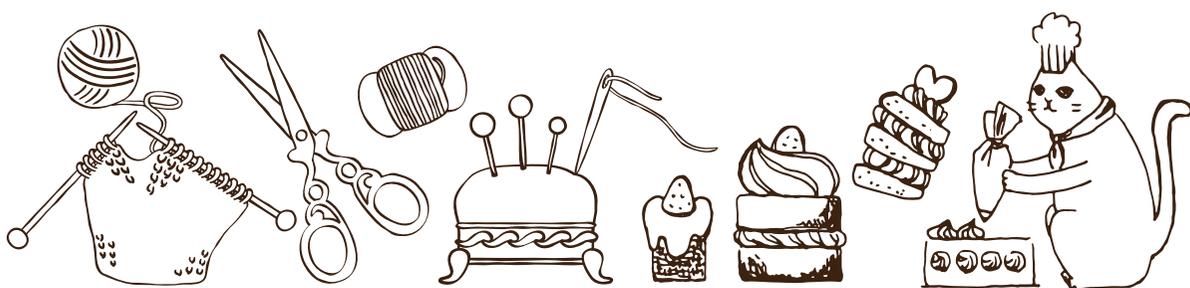
私たちは知るべきです。私たちは自力ではみな不合格となり、羊の群れは散らされてしまうのだ、ということ。だからこそ、それを再び集める方、探し出して連れ帰ってくださる方がいますことを。

サタンの試みに自ら打ち勝ち、十字架の死に至るまで、神の意思に自ら従われた方は、イエス・キリストただ一人です。この方が私たちを守り、ふるいにかけれなくても信仰がなくならないように、私たちのために祈ってくださる。だから、私たちは立ち直ることができます。一人が立ち直った時には、他の兄弟姉妹を力づけ、互いに力づけ合うことができます。

私たち教会は、イエス様から王権を委ねられ、この方と共に、神の国を治める仕事に携わるのです。私たちのために祈ってくださるイエス様の祈り、ただその祈りを支えとする限り、私たち教会は、神の国の福音が宣べ伝えられる皆、神の国の見える形、その入口として、用いていただくことができるでしょう。(4月6日)

# 手作りの楽しみ

お菓子や小物を作ったり、ガーデニングをしたり。思いを込めて作った作品はオリジナリティがあり、愛着も湧きます。あなたの手作りの楽しみを教えてください。



## 分かち合う喜び

河野昌子

私の手作りの楽しみは、みんなが笑顔になることです。私が手作りを始めたのは、夫の海外駐在に同行して、日本の数倍甘く、着色料だらけのお菓子ばかりで自分で作るしかないという理由でした。また、ホームパーティーや持ち寄りランチ会が毎日のようにあり、手作りの機会が増えました。レシピ交換が行われ、自分流にアレンジしておいしくなり、我が家の定番になったものもありました。

持ち寄り料理は、皆が忙しい中で一品作ってくるので、時短料理が主流で、調達しやすい材料で、作りやすいものばかりでした。米国人はパスタを茹でて市販のソースを和えて粉チーズをその場でかけるだけ、英国人は、ペンネを茹でて、チーズを和えるだけとかでした。日本人が持参するものももう少し作業行程があり、好評でした。色々な家庭の料理をみんな

分け合って食卓を囲むことは楽しい時間でした。

帰国後、娘と行った『親子パン教室』で、「お母さんの作ったメロンパンが食べたい」と言われたことがきっかけで、パン教室に通い始めて、その教室で開催している色々なコースを修了して料理と手作りパスタを教えることになりました。同時に自宅でも教室を始めました。『MANA.パン教室』という名前にしました。

最近では、コロナの影響もあり、「他人が作ったものは作業行程がわからないから食べたくない」という風潮になり、以前は一緒に作ったものを分けて持ち帰っていましたが、今は各自で作るようになり、一緒に作り分かち合う喜びが減りました。そんな中、私も限られたところだけに、手作りのものを持参します。

神様から頂いた恵みを家族や友人と分け合い、「おいしい」と笑顔になっていただけるためなら作っている時間も楽しい時間となります。感謝です。

## 思い出の手作り

瀬倉昭恵

大切な家族で相棒の犬のアニーが一昨年11月14日に虹の橋を渡り、今は大好きな絵手紙も描けない状態です。

手作りに出会ったのは、下の妹が生まれた小学校3年の頃。ガーズで「おかけ（よだれかけ）」を作る。叔母が「三越の良い子ちゃん」を従姉と私に買ってきてくれた時、上の妹が「これは私の」と言い、私から取り上げた。それを機に布や毛糸で人形を作り始める。髪の毛は三つ編み、おかつば頭、丸坊主頭の三体。服はワンピースやアンサンブルをそれぞれ作って着せた。下の妹が2才位の時、従姉や私の服の残り布で上着を作った。絵を描いて黒のビロードと明るいチェック柄の布を母に渡し、型紙を作って貰い、生地を裁ち、縫い方を習って作った。これが私の最初の服作り。今でも色、柄、デザイン共によく覚えてる。帽

子は毛糸で編んだ。次はワンピース作り。大森駅商店街の大きな生地屋さんに父に連れて行って貰い、妹に似合いそうな柄の生地を買い、アンダーウエストのワンピースを作る。このデザイン、柄も未だに記憶にある。その後の製作物に関しては不思議と記憶にない。

中学になると家庭科の授業でブラウスを製作。2年ではゆかた、3年ではスカート（私はジャンパースカート）を製作。高校の制服のセーラー服上下も作る。型紙から裁断迄は母任せ。冬の制服のオーバークートはダブルで紺のベロア地。生地を調達、型紙と裁断は母。和裁は中学2年位から習い始め、高校卒業迄には袷の着物迄習得。勿論趣味の域です。洗い張りをした銘仙とお召し。2年かけてやっと袷2着。編み物は6年の授業で編んだ靴下が始まり。ベストとセーターは母から習う。母世代は、女学校で和裁洋裁、編物を習得。洋裁は田中千代先生のお教室で学び、全ての基礎になっていたそうです。ペットロスから抜けた時には、神様の御心と導きそのままにと歩んで参ります。

## 伊藤英志牧師との懇談会報告

3月23日、三軒茶屋教会の伊藤牧師をお招きし、礼拝後懇談会を開催しました。

伊藤牧師はICU教会で受洗されました。牧師を志した背景には学生時代、タイのワークキャンプで出会った各国の宣教師がハッピーだった姿と、死が身近にある過酷な状況で過ごした体験が影響しているそうです。NGO等での勤務を経て35歳で東京神学大学に編入、卒業後富士見町教会で伝道師・副牧師をされ、2010年より三軒茶屋教会の主任牧師となる一方、現在は東京教区副議長として活躍されています。

富士見町教会から三軒茶屋教会へ移る際に意識されたことは「前の教会のスタイルを入れない」と明快。「新しい牧師と教会員が分かり合うには5年かかる。だから気長に。焦らないで」と言葉は私たちに今必要な助言だと実感しました。また「牧師の子どもが教会になじめばその教会は百点満点」「牧師の子どもが東京神学大学に進学しないのは伝道が広がら

ない要因の一つ」との話は気づかなかった視点で目から鱗でした。

「献身者を出さない教会はダメ」「教会に献身者が来てくれるのを当然と思つてはいけません。来てくれるということは他教会から横取りすることなのだから」とも話され、正直耳が痛く心に刺さりました。

三軒茶屋教会が駒沢教会を合併した経緯を伺ったところ、駒沢教会は敷地をマンションにして分譲、10年余は順調だったものの徐々に財政状況が悪化、維持費すら払えない状況に陥り、三軒茶屋教会へ合併を申し出たそうです。伊藤牧師は「これは合併というより救済事業だった」と明言、「教会は敷地を分譲や賃貸すべきではない」と強く仰っていました。

新来会者に対しては、私たち教会員はつい礼拝堂の前列へと案内しがちですが、伊藤牧師の「さつと来てさつと帰れる雰囲気が大切だから後列を新来会者に」との話に、なるほどと思われました。

お話全てが刺激的で示唆に富み、もつとお聞きしたいと思つた方は多かったと思われ、有意義な時間となりました。（尾藤美紗子）

## 『完全にひとつとなる』

説 教

エゼキエル書37章21～28節  
ヨハネによる福音書17章20～26節

三軒茶屋教会牧師 伊藤英志

「私が彼らの内におり、あなたが私の内におられるのは、彼らが完全にひとつとなるためです」「父よ…すべての人を一つにしてください」十字架での死が迫っている前夜、主イエスが父なる神にこう祈っています。

神による救いの現れを最も待ち望む祭である逾越祭の夕食の席でのその祈りは、弟子たちをはじめとする後代のキリスト者たちが神と一つとなるようにと執り成しています。なぜなら、教会の時代になつて使徒たちとキリスト者たちが主キリストの福音を宣べ伝える先では、一つではいられなくなる程の多くの大変な困難や迫害が待ち受けているからです。

しかし、旧約聖書で証言されている通り、神の民であるはずのイスラエルは皆完全には一つにはなれず、神とも一つにはなれません。同じ信仰で一つとなっているようでも、実は信仰によって

一致できず、信仰の秩序が崩れて背信に向かったゆえに神の怒りが下つた、その歴史をたどりました。

主イエスの時代になつても、同じ信仰を抱いているはずの者たちが主イエスを妬んで憎み、十字架で殺害するほどにバラバラに分裂します。ところが父なる神はこれに怒るところか葬られた墓から主イエスを復活させ、人間を死と滅びから救おうとしておられるその意志を明確に世に現しました。父・子・聖霊なる神が一つなる神であるように、すべての人間も完全の一つとさせて、神と一体とさせたい。それが、永遠なる平和が神によって打ち立てられるに至る、聖なるご計画の目的なのです。

この度、経堂北教会を長年牧してこられた岸俊彦先生がこの教会から離れ、来月から新たに一人の牧者を迎えようとしています。これは主イエスの御心の現れです。ところが、これまで多くの教会

で牧師の交代時には動揺と混乱が少なからず生じてきました。前任者の進め方とは異なる、期待してた人柄ではない、習慣やしきたりを重んじてくれない。そうした思いが、不平や不満となつて募り、一同が一つではいられなくなる事例が見受けられました。

しかし、牧師の交代とは、新しい一步を今まで以上に雄々しく踏み出せるチャンスでもあります。牧師が交代しても、皆が一つであろうとする。たとえ変化が生じても主イエスにおいて一つとされる。これを皆で祈り求めるのであれば、どのような変化も克服できるであります。わたしたち一同はまさに、この変化に招かれているのです。「大変」とは、嘆かわしいことばかりでなく、大きく変わつてゆける時の到来です。教会の頭なる主イエスの御心に、これまで以上に適う歩みに踏み出せる好機なのです。

「すべての人を一つにしてください」と主イエスが祈つたように、これからもわたしたちは完全に一つとなる歩みにあります。その歩みから離れてはなりません。

十字架と復活の主イエスを信じるキリスト者たちは、たとえ一見して一致していない様子が生じるとしても、既に一つとされているのです。わたしたちが気付かないでいるとしても、既に完全に一つとされている。これがキリスト者たちの群れを通して人知れず実現している、神による救いの御業なのです。一同が洗礼による清めを受けて、なお避けられない罪を赦されながら、神に属する命であり続けている。そのようにして救われた者たちであるキリスト者たちの群れは、この世では神の御業が現れ出ている具体的なしるしであり、主キリストの御身体なる教会そのものとなっているのです。

教会に属するわたしたちは、一同が一つとされたさまを、神による救いの御業の現れとして、この世に対して証しできるのです。そのようにして、次の節目を迎える経堂北教会に連なるキリスト者たちが、主なる神の御心に適う地上でのその歩みを、変化を恐れずに、大きな変化にひるまずに、これからもなお雄々しく進んで行つていただきたいのです。(3月23日)

## 追悼

全ては主のご計画

故・  
林崎正史兄

父・正史は真面目で寡黙な男でした。社会福祉を専攻、一貫して障害を持つ子どもたちの施設や児童相談所などで働き、ブレることなく弱者のためになすべきことをする人でした。人のことに口出しせず、必要な人には最低限のサポートをして自立を促し、自分はそのを見守るのが信条でした。

今年に入り突然倒れるようになり、1月20日入院、肝臓に癌が見つかり余命5カ月との診断。それから2カ月も経たずに亡くなってしまったのですが、驚いたのは背に「終活」と書かれた目立つファイルが父の本棚にあり、正常な判断がつかなくなった時にすべきこと、死後の臓器のこと、家系図、学歴書、職歴書、戸籍謄本、住民票、口座と暗証番号、葬儀の見積もり、聖句、愛唱讃美歌、弔辞を

依頼したい親友、連絡すべき人のリストと電話番号など全て書かれていたのです。余計なことは何もなく、淡々と必要事項だけ、周りの人が困らないよう天国までの道筋がまとめられていました。入院や葬儀に必要な現金も自宅の金庫にありました。このファイルを見つけた時、本当に驚きました。父は決して人に迷惑をかけたくない人でした。

最期の10日間は、自宅へ戻り沢山の方がお見舞いに来てくださいました。故郷の姉たち、最愛の娘と孫たち、大雨の中来てくれた教会学校の教え子、額に手を当て祈ってくれた長老と姪っ子、横浜から飛んできたかつての同僚、息を引き取るまで手を握り続けた母。ゆっくり衰弱していく中で、しっかりお別れできたのも、父の準備ができていたからだと思います。葬儀では沢山の方に見送られ、岸牧師の司式でお別れができました。本当にありがとうございました。父と母が結婚式を行ったこの会堂で葬儀をできたこと、全ては主のご計画のうちにあることを学ばされました。(林崎信久)

## 穏やかな奉仕の日々

故・  
大川由美子姉

姉は穏やかでおとなしい性格でした。女子学院を卒業後、恵泉女子園短大に入学。卒業後、伊藤忠商事に入社しました。会社と自宅の往復しかせず、ほとんど寄り道などせず、まじめに定年まで勤めました。趣味といえば会社のテニス部に入り、土曜日には幕張にある会社のコートに通い楽しんでいました。

それと同時に成城にあるテニスクラブに父と私と共に入会し、会社のコートとクラブコートの両方で楽しんでいました。

昭和35年に父の会社の社宅より経堂の船橋に居を構えました。それが経堂北教会との繋がりの初めだと思えます。1977年に洗礼を受け熱心に通い、日曜学校の先生や聖歌隊の一員として奉仕をしておりました。

恵泉女子園同窓会では事務局の仕事を手伝い、そこでも奉仕の精

神を育んでいきました。定年退職後は自宅から経堂駅までのスズラン通りを毎日2往復し足を鍛えていましたが、2021年足が連れ転倒し、骨折してしまいました。その後もたびたび家中で転倒するようになり、病院で検査したところパーキンソン病と診断されました。転倒する理由はそこにあつたのです。

姉は1階で一人で暮らしていましたが（私共夫婦は2階）が、家中でもたびたび転び、歩行が困難となり自宅で生活するのが難しくなり、近くの有料介護付き施設に入所しました。当初は施設内では皆さんとも談話をしたりゲームをしたりしていましたが、病状が進み2024年入院しました。先生に「12月までもたない」と言われましたが、彼女は頑張って治療に励んでおりましたが、ついに力尽きて3月29日、天に召されました。苦しむことなく非常に穏やかに最後でした。

教会の皆様には生前いろいろとお世話になり感謝申し上げます。

(弟・大川洋太郎)

## 受洗・信仰告白おめでとう！

## 受洗にいたるまで

林 玲美

3月16日に洗礼を受けました。受洗を決めるまでに長い長い年月を要しました。

私には生まれた時から経堂北教会がありました。父、林信明の転勤で4歳から経堂を10年離れていましたが、経堂に来る機会があれば都度両親にくっついて大人の礼拝に出席。14歳で教会から5秒の自宅に戻ってきました。ある日曜日、「ピンポン」とインターホンが鳴り、CSの2人の女の子が「一緒にCSに行きましょう」と誘ってくれたのがきっかけで、初めて大人の礼拝でなく、CSに通うようになりました。

村田正亮牧師のひ孫であり、祖母の林愛子からも大叔父の村田望からも「そろそろ洗礼を受けないとね」とよく言われていました。そんな中、母・弥寿恵からは「貴

方自身の意思でその時に洗礼を受けてね」と言われていました。父は何も言わないで、ただ「一緒に教会に行こう」と誘う。さあ困った。受洗<sup>レ</sup>についてはいつも頭にはありません。洗礼を受けるのと未受洗の自分で何が違うか？経堂北教会が好きだから？経堂北教会が私にとって大切なのは村田正亮牧師のひ孫だから？そうでなかったら？常に考えて生きてきました。

岸先生の退任の話が数年前に出たから、より一層受洗を考えるようになりました。私にとつての経堂北教会と同じように、岸先生も生まれた時からいらつしやる先生でした。岸先生の説教で「この教会に来て42年間」と聞いて、私と同じ年！と驚きました。駆け込みになりましたが「受洗したい」と申し出ました。「わからないからこそ、信じて委ねるのです」と岸先生からお言葉をいただきました。皆様との交わりの中で私は神様を信じ、そして、この日を迎えることができました。ありがとございます。私の「信仰生活」が新たに始まります。これからもよろしくお願ひいたします。

## これからも神様と一緒に

村田 健

私は1歳半の時に祖父、村田正亮牧師から幼児洗礼を受けました。そして63年を経て、岸牧師のもとで信仰告白させていただきました。長野県信濃町柏原で生まれ、しばらくして経堂に戻り、祖父との暮らしが始まりました。母に抱かれて礼拝に出席し、四竈縄ちゃん（純雄さん）、知ちゃん（知子さん）と遊び、教会が生活の中になりました。

4歳で父の赴任先スウェーデンに移ってから、日曜日は家族4人車で、片道1時間かかるストックホルム旧市街の教会で礼拝に出席、零下10℃の真冬でも当たり前でした。約2時間の英語での大人の礼拝はかなりきつく、礼拝後のハッピーアワーのお茶とお菓子、家に帰ってから母が作ってくれる半熟卵のつたインスタントラーメンが最高の楽しみでした。

帰国後は当時村田の家は知人に

貸していたため、2年間成城の社宅から教会学校に通いました。大人の礼拝が終わるまで、林の叔母（父の姉で玲美の祖母）宅で姉と『スター誕生！』を観て過ごしていました。しかし中学生後半からは教会から離れてしまいました。信仰告白に至る経緯に関してです。従姪の玲美とは時々食事をすることがありましたが、義兄ゴンちゃん（澤田洋一）の受洗の報告には驚かされました。自分も玲美も、神様の存在は当たり前で、幼少から同じ教会の中に生活がありました。受洗や信仰告白をしなくても、と話していましたが、お互いのどこかモヤモヤした気持ちをやつと神様の前に言い表しました。

よつちゃん（妻・佳子）には、腰部脊柱管狭窄症の手術を受けた虎ノ門病院のエスカレーターで、信仰告白をする少し前に知らせました。母のことを思い出し涙して喜んでくれました。信仰告白の朝、村田の祖父、林の叔母、義母の杉本和子ばあば、おやじ、おふくろの写真に報告しました。これからお手柔らかによろしくお願ひします。

## 転会おめでとっ!

### はじめまして

#### 松谷佳子

松谷佳子と申します。夫は牧師の松谷祐二です。どうぞよろしくお願いたします。岸先生はじめ、教会の皆様には素敵な牧師館を建てていただき、本当に感謝申し上げます。

私は、夫と息子佳祐(高2・祐二と佳子の文字を使用)の3人家族です。そして私はとても動物が好きです。2月1日の転居時は、保護犬の2匹(天14歳♂・いちご8歳♀)とウズラ(ラッキー5歳♂・ハッピー5歳♂)を連れて来ました(天は3月1日に天国へ行きました)。小さい頃から、犬猫鳥と過ごしてきました。

中高校生の頃は、人より動物といる方が好きで、ペットの世話のために走って電車で飛び乗り帰宅するような人間でしたが(学校の人間関係も悪くなく、ちゃんと友

達もいましたよ)、生き物を通して、人間も好きになりました。ですから私にとって動物は先生です。

次に、私は少し耳鼻が弱いです。耳鳴りや、よく中耳炎になるので、涙で中耳炎に。悲しくても出来るだけ泣かないように頑張らないといけません。またメニエール病なので世界がいつも傾いているような感じがしています。駅のホームの端は歩かないように。階段も上る時、後ろ向きに落ちそうになることがあるので、手すりのある側を使います。また、私は面白い人らしいです。

私の良いところはどこか?と結婚した理由も兼ねて聞くと、夫は真面目に「面白いから」と答えます。私といると笑える。いつもそう言います。私の答えはこうです。牧師になる人と結婚しようと思つた時、その人の説教を一生聞かねばならないのなら、祐二さんの説教がいいなど。あれから17年、後悔は今のところありません。

いつも嬉々として説教準備をしているように見える姿は、本当に羨ましいです。夫は時間との戦いで危機(鬼気?)なのでしょうが。

## 長老のファイル

先日行われた長老会は、松谷先生を迎えて初めての長老会となりました。お弁当を食べた後、岸先生が引継ぎのために準備してくださっていた資料などをもとに定期教会総会に向けての準備を中心に話し合いました。新しい牧師を迎え、まさに経堂北教会の新しい歩みの起点となる総会です。

2025年度計画では、松谷先生に教会になじんでいただくためにこれまでの活動を引き継いでいくとありますが、同時に、諸活動に新しいメンバーが入ることで、新たな風が吹くことも期待しています。新たに経堂北教会のメンバーとなった方はもちろん、そうでない方も新しい出会いや環境を楽しみながら無理せず、ともに教会の働きを担っていきましよう。

先日、受難週祈禱会に出席したとき、牧師夫人の松谷佳子さんが「初めまして」とあいさつにきてくださいました。もちろん初めましてではないのですが、数日前に長髪だった頭を坊主刈りにして

いたせいでした。大勢いる教会員を覚え、一人ひとりに声をかけてくださることを有難く思うとともに、本当に大変なことだと思います。私は長く経堂北教会に通っていながら、なかなか教会員の方の名前やその人のことについて頭に入ってきません。まことに長老にふさわしいかいつも思っています。ですが、神様の召しとして自分のできることに誠実に取り組んでいきたいとは思っています。

最後に定期総会資料についてです。この『栄光』が皆さんの手元に届く時には総会が無事成立して承認された2025年度計画に従って、経堂北教会の新しい歩みが本格的に始まっていることを願っています。総会の中では詳細まで説明できていないことも多くあると思いますが、総会資料には、私たちが共に想い集うこの教会の歩もうとする具体的な道が書かれています。不明な点などありましたら、牧師・長老にいつでもお話しください。共に教会のことを考え、喜びながら、御業のために日々を過ごしていきましよう。

(大友太郎)

## 牧師の寄り道

聖書には人が「衣を裂く」という場面が見られる。深い嘆きや、強い怒りを表現する行為だと言う。実は私も、「衣を裂いた男」である。と言つても、嘆きや怒りをぶつけたわけではない。

前任地の教会には附属幼稚園があり、12年間、牧師と園長を兼務していた。保育は素人だから、牧師としての聖書のお話以外は裏方、事務方に徹し、プロの先生た

ちの邪魔になることはしない。ただ、毎朝門に立って、登園する子どもたちを笑顔で迎える。最初はぎこちなかったが、次第に慣れて来て、園児や先生たちに親しんでもらえるようになった(と思う)。年長クラスは、1月、卒園も近い時期になると、ドッジボールを教わる。子どもたちがゲームに慣れてくるとほどなく、「ママたちと勝負しよう」「先生と勝負しよう」という流れになる。ママたちも先生たちもノリがいい。童心に帰ってドッジボールに興じる。そ

んなある日、私にも声がかかった。大人vs子どもの試合がすぐにも始まるうところ。私はいつもスーツと革靴で仕事をしていたが、せっかくのお誘いだし、もたもた着替えて待たせるのも…と、そのまま大人チームに入った。

庭で靴が滑った。前のめりに派手に転んで膝を打つ。「だ、大丈夫ですか? (笑)」と周囲に気遣われつつ、何でもないふりをしてすぐ立ち上がり、最後までプレーした。ママたちや子どもたちは、牧師・園長のそんな一面が見られて楽しかったらしい。結構結構。牧師館に戻つてみて気がつく。スーツの膝が4cmほど裂けていた。話を聞いた家族は呆れ、何か恥ずかしいものを見るような目で私を見るのである。…少しは同情してくれ。(松谷祐二)

## 個人消息



## 掲示板



- 松谷祐二牧師就任式  
5月4日(日) 午後2:00
- 子どもの日合同礼拝  
5月11日(日) 午前10:15
- 東京教区総会  
5月27日(火) 於：富士見町教会
- 聖霊降臨日 6月8日(日)

## 編集後記



▽松谷先生をお迎えして新体制がスタートしました。『栄光』の原稿依頼から印刷・製本までを栄光編集委員会で担い、久しぶりに遅くまで教会にいました。昔に比べて随分と効率化が図られたんだなあと感じました。(酒井)

「栄光」2025年5月号  
日本基督教団 経堂北教会  
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11  
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038  
牧師：松谷祐二  
編集：栄光編集委員会  
Email：kyodon@nifty.com  
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp